No.11　名張市（三重県）

平成29年度幼児教育の推進体制構築事業成果報告書（概要）

【基礎情報】担当部署：　三重県名張市教育員会事務局学校教育室

①　規模

人口	79,167名（平成30年3月1日現在）

②　幼児教育センター（名称：　－　　）

設置年度	平成28年度4月	設置形態	部署間連携
設置場所	・本庁（教育委員会） ・本庁（首長部局） ・子どもセンター	人数	担当者4名 （うち、常勤2名、非常勤2名）
主な業務内容	・公立保育所・幼稚園・私立保育園・認定こども園・小学校への指導業務 ・幼児教育の推進体制構築事業に係る事務 ・研修会の主催		

③　幼児教育アドバイザー

名称	人数（単費内訳）	雇用形態	主な経歴
幼児教育アドバイザー	2名	賃金（2名）	元公立小学校長、元公立幼稚園長

主な業務内容	・保育所（園）・幼稚園・こども園、小学校巡回による指導・助言 ・接続カリキュラムの作成 ・研修会の企画・運営
派遣対象地域	市内全域

④　全幼稚園数、認定こども園数、小学校数、保育所数（園）

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
			うち、幼稚園型認定こども園								うち、保育所型認定こども園				
6園			－園			1園			14園		－園		－園		14校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
－	2	4	－	－	－	－	－	1	4	10	－	－	－	－	

⑤　訪問施設数（園）（平成30年3月31日時点）

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
			うち、幼稚園型認定こども園								うち、保育所型認定こども園				
6園			－園			1園			14園		－園		－園		14校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
－	2	4	－	－	－	－	－	1	4	10	－	－	－	－	

⑥　訪問回数（回）（平成30年3月31日時点）

幼稚園						幼保連携型認定こども園			保育所				地方裁量型認定こども園		小学校
			うち、幼稚園型認定こども園								うち、保育所型認定こども園				
14回			－回			1回			24回		－回		－回		17回
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
－	9	5	－	－	－	－	－	1	12	12	－	－	－	－	

⑦　⑤以外への派遣回数（回）（平成30年3月31日時点）

3回	教育センターで研修会を実施

No.11　名張市（三重県）

【テーマ】
幼稚園・保育所（園）から小学校へのスムーズな接続のための公開保育・公開授業の実施

１．取組の経緯

①当市ではこれまで、小学校教員と幼児教育関係者が一同に会し相互の指導状況を交流することによって就学前教育と小学校教育とをつなぐための相互理解を深めるとともに、個々の教職員の指導力向上を図ってきた。また、一方で、福祉子ども部子ども発達支援センターと教育委員会教育センターがおかれている子どもセンターを拠点として、福祉・教育の連携による0歳から18歳までの途切れのない支援の構築を進めてきた。そのような中で、本市の特徴的なこととして、一つの小学校に複数の幼稚園・保育所から就学する子どもが数多く見られるようになり、こうした状況と相まって、いわゆる小１プロブレムの状況が多くの学校で見られるようになってきた。

②平成28年度より、本事業を開始し、幼児教育アドバイザーが、幼稚園・保育所・認定こども園を巡回する中で、支援システムにより特別な支援を必要とする児童についての「支援の移行」が上手く機能していることが検証できた。しかし、同時に、保育・教育の内容に関わっては、双方の意識に差異があることも見えてきた。このことから、保育・教育の職員が互いに保育・教育を参観し、その内容や目的を共通理解できる取組をしていくことを本年度の重点内容の一つとした。

③幼児教育アドバイザーが園・学校訪問の中で、この趣旨について管理職等に理解を図っていったところ、保育・授業を互いに公開することについて園と学校の協力を得ることができ、保育幼稚園室及び学校教育室主催の研修会として実施した。

２．取組の内容

①小学校公開授業

平成２９年７月３日（月）　　於：名張市立桔梗が丘東小学校

〇公開授業（９：４０　～　１０：２５）

第１学年１組　国語科　「あいうえおであそぼう・おおきなかぶ」

〇協議会（１０：３０　～　１１：１０）

②幼稚園公開保育

平成２９年１２月５日（火）　於：名張市立名張幼稚園

〇公開保育（１３：００　～　１４：００）

ばら組　：　「気持のカード」により、自分の考えや思いを伝える。

きく組　：　飼育動物の冬の過ごし方について話し合う。

〇協議会　（１４：１５　～　１５：１５）

③参加者アンケートより

◎小学校公開授業

Ｑ：１年生の今の姿につながっているだろうと考えられる園・保での取り組み

・遊びの中で心が動くことすべてが言葉の表現になると感じる。こういう実体験が学びの土台になると思う。

・遊びを通して、集中・意欲・関心を高めている。この積み重ねが学習意欲につながっていると思う。

・姿勢を正すことについては、自園でも「ペタ、ピン、トン」などのような言葉で言い、子どもとともに見直している。

・１日の流れやクラス活動について、ホワイトボード等に流れを書いて知らせ、見通しを持たせている。

・１日の終わりにどんなことを感じたか振り返りを行い、次の活動へつなげている。また、やってみたいという意慾につなげている。

Ｑ：今後、学校・園・所で、取り組んでいきたいと思うこと

・姿勢の保持がしっかりとできるように、繰り返し声掛けをすること。

・活動の内容を明確に伝えていくことで、子どもたちのわかりやすいとりくみになり、意欲をもって参加できるようにしていきたい。

・「目あて」「ふりかえり」をもっと意識して取り組むこと。

・１つひとつ丁寧に子どもを認め共感しそれを伝えていきたい。

・今後もことばあそび、ことわざあそびなど、文字に親しむ事をたくさん取り入れていきたい。

◎幼稚園公開保育

Ｑ：小学校での学びにつながっていくだろうと考えられる幼児の姿

・友だちの発表を聴く姿勢。友だちの発表に、質問する、かえす、伝える姿。
・子ども一人ひとりがクラスの仲間に関心をもち大事にしている。しっかり聞いている。
・先生の指示がなくても、子どもたちが自分から動けるようなしかけ（視覚支援、個人への声掛かけ）がたくさんあった。
・挙手して指名されてから発言するなどの話し合いのルールができている。
・待ち時間を座ってまつ、先生が前にすわったら静かにすわる。
・係りを決めて、自分の仕事をみんなの為に一生懸命している姿

Ｑ：今後、学校・園・所での取組に活かしていきたいと思うこと

・一つひとつの活動が丁寧。
・指示や注意がほとんどなく、ほめる言葉が多かった。
・話を聞くときの約束「となりの人にさわりません」のように、めあてをもたせるときはスモールステップで具体的に示すようにしていきたい。
・人の話を静かに聞ける子、自分の考えや思いを言葉で伝えられるように、安心して過ごせるクラスづくり
・約束をきちんと文字にして書かれていたことが素晴らしいと思いました。
・視覚支援を丁寧にしたい。
・物の置き場所を分かりやすくすること。（シールをはる、小分けにする、など）

３．考察

当日の協議会で話し合われた内容やアンケート結果をふまえ、本取組の成果を以下の３点にまとめた。

まず、保・幼・こども園と小学校の双方向からの公開により、教員・保育士が、その取り組みや子どもの様子を互いに知ることができたことである。小学校の公開授業では、国語科の参観を通して、入学後３カ月の時期に４５分間の教科指導というスタイルで意欲的に学ぶ子どもの様子に感心し、指導者の細かな配慮に学ぼうとする保育士・幼稚園教員・保育教諭の姿があった。また、幼稚園の公開保育で小学校の教員は、豊かな「ことば」を育む取り組みの参観を通して、子どもたちが互いの意見を聞き合い、自分の考えを言おうとする姿に、「年長の段階でここまでの力が育っているのか」と驚いていた。このように、保育士・教員が互いに保育・授業を観ることにより、新たな気づきを得る機会は、「スムーズな接続」を考えるにあたって重要である。

次に、保・幼・こども園として、子どもの「学びの芽」をより意識できるようになったことである。「あいうえおであそぼう」は、言葉遊びを学びにつなげていく教材であり、参観者は、子どもの学びの姿から保育との接続を考えることができた。「遊びの中で心が動くことすべてが言葉の表現になる。遊びを通して、集中・意欲・関心を高めている。この積み重ねが学習につながっていると思う」等と、小学校での学びに向かう力として幼児期の子どもに育みたい力を意識し、普段の保育実践を考えていこうとすることができた。

さらに、小学校としては、保・幼・こども園の保育の実態を踏まえた教育のあり方を考えることができた。子どもたちの「聞く・話す」ルールが定着している話し合い活動、教員の話に興味をもって思考する姿、さらに、責任をもって当番活動にあたる姿等から、子どもたちにこのような力が育まれていることを踏まえて、小学校での活動に丁寧につなげていくことが大切であると実感することができた。また、指導者の細やかな指導や環境構成は、小学校での一斉指導形態の授業を行う上で、参考になる気づきも多くあったようだ。

４．今後の方向

前述のように、保・幼・こども園と小学校の教員・保育士・保育教諭が互いに実践を観合い、議論を深めていくことの意義は大きく、来年度以降も継続実施していきたいと考える。しかし、教育現場・保育現場ともに多忙であり、取組の定着を図るためには、実施時期を考慮したり、取組を精選したりする等、工夫が必要である。